

の利用について、平成6年度大阪管区府県研究会誌、316-317.

黒良龍太、1995：CAPEの計算における仮温度補正の効果、平成7年度大阪管区府県研究会誌、332-333.

黒良龍太、1996：不安定降水に関する大気成層状態の指数について、平成8年度大阪管区府県研究会誌、344-345.

黒良龍太、1997：中国地方の熱雷と安定度に関する指数、研究時報、49、別冊、168-169.

黒良龍太、1997：中国地方における冬季の寒気移流による発雷と安定度に関する指数、平成9年度大阪管区府県研究会誌、396-397

黒良龍太、1998：中国地方の発雷と安定度に関する指数、研究時報、50、別冊、174-175.

シンポジウム「地球温暖化と季節推移」のお知らせ

「地球温暖化が人間活動によって生じた」と定句のようになった今日、人間活動による温暖化によって季節はどのように変わってきたのか。季節推移は気候変動の側面であるばかりでなく、経年的な変動よりも季節変化が引き起こす課題に焦点を合わせる場合、また人工気候によって季節推移する場合にも課題として登場する。これらの意味には大なり小なり人間生活が係わるので、エネルギー消費を経て地球温暖化につながる事が明らかである。かくして「地球温暖化と季節推移」は時宜を得て格好の課題であることが理解される。」

上記趣旨のもとで、いわゆる地球温暖化現象が季節変化に及ぼす影響について、植物季節、都市気候やエネルギー消費の立場から議論を深めるシンポジウムを企画しました。ふるってご参加下さい。

名称：シンポジウム「地球温暖化と季節推移」

日時：2000年10月21日（土）10時～18時

会場：龍谷大学深草学舎21号館501号室
京都市伏見区深草塚本町67

主催：気候影響・利用研究会

共催：日本農業気象学会近畿支部、日本農業気象学
気候変化影響研究部会、日本建築学会近畿支部

後援：日本気象学会、日本気象学会関西支部、日本
生気象学会、空気調和・衛生工学会近畿支部
(申請中のものを含む)

プログラム：

☆主催者挨拶

気候影響・利用研究会会長 川崎 健

☆一般講演

- ・生物季節による日本の季節区分：
河村 武（愛知産業大学）
- ・ウメ開花日からみた日本の冬季天候経過の年々変
動：
河合隆繁（日本大学）

・気候変動に伴う影響検出に関する研究

—日本における影響の検出—

山本佳香（慶応義塾大学）

・生活と健康の季節依存性—温暖化の影響—

佐々木昭彦（国立公衆衛生院）

☆シンポジウム基調講演

・‘とってすてる’しかないCO₂? :

山口克人（大阪大学）

☆シンポジウム招待講演

・温暖化と植物季節： 朴 恵淑（三重大学）

・生物季節観測と季節推移： 森 秀雄（気象庁）

・サクラの開花の季節推移：

青野靖之（大阪府立大学）

・都市環境のクリマアトラス： 森山正和（神戸大学）

・夜間冷気形成と夏季の防暑法：

芝池英樹（京都工芸繊維大学）

・体感の季節推移と新サマータイム：

中村泰人（熊本県立大学）

☆総合討論

備考：

・参加費は無料ですが、予稿集を当日販売します
(共催・後援学会員500円、一般1000円)。

・懇親会を18：30より龍谷大紫英館6階グレルにて行
います(会費4,000円、当日受付可)。

問い合わせ先：

「地球温暖化と季節推移」シンポジウム

実行委員会事務局

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

龍谷大学経済学部 増田啓子

Tel: 075-645-8580, Fax: 075-643-8510,

E-mail: keiko@econ.ryukoku.ac.jp

ホームページ (<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jsgcia/index.html>)